

完結版、一挙上映。

講演「羽田澄子氏 十三代目仁左衛門を語る」／上映『若鮎の巻』『人と芸の巻(上)(中)(下)』『孫右衛門の巻』『登仙の巻』

「私は覚悟を決めた。関心のある人が、心ゆくまで仁左衛門さんの芸と人を見つめることができるものにしよう」と。羽田澄子(演出)

映画

平成21年3月27日(金)・28日(土)・29日(日) 京都芸術劇場 春秋座

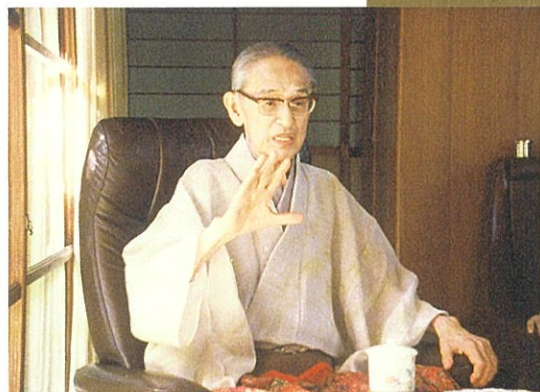
「京都造形芸術大学内」

映歌舞伎役者

十代三目

片岡仁左衛門

稀代の上方役者が遺したメッセージ



□入場料＝〈一日券・全席指定〉一般:1,800円 / シニア:1,600円 / 学生&ユース:1,000円
〈三日間通し券・全席指定〉一般:5,000円 / シニア:4,500円 / 学生&ユース:2,700円
□チケット発売開始＝平成20年12月16日(火)
□主催＝京都造形芸術大学 □後援＝KBS京都 京都新聞社
□協力＝京都造形芸術大学映画学科 □企画＝田口章子(京都造形芸術大学教授)

歌舞伎役者 十三代目 片岡仁左衛門

稀代の上方役者が遺したメッセージ

映画「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」について——演出 羽田澄子

十三代目片岡仁左衛門さんは一九〇三年明治三十六年生まれ。二歳で初舞台を踏み、一九九四年（平成六年）九十歳で亡くなったが、最後まで現役の役者であった。この映画は歌舞伎界の最長老であった仁左衛門さんの八十四歳から九十歳で亡くなるまでの舞台や生活などさまざまな姿を記録し、まとめたものである。

撮影は一九八七（昭和六十二年）年六月、大阪「中座」での『伊賀越道中双六』の舞台からはじめた。ロケの回数は60回を超え、撮影が進むにつれて、これは普通の映画作品のスタイルに収まらないと思うようになった。私は覚悟を決めた。関心のある人が、心ゆくまで仁左衛門さんの芸と人を見つめることができるものにしよう。仁左衛門さん八十八歳の段階で、「若鮎の巻」「人と芸の巻 上・中・下」「孫右衛門の巻」の5部作をまとめた。5部作の完成後も仁左衛門さんは舞台上に立つておられた。私たち撮影を続けた。九十歳で亡くなるまでそれは続いた。最後の記録をまとめたものが「登仙の巻」である。

実は仁左衛門さんは殆ど視力を失っておられた。仁左衛門さんの日常生活での不自由な姿を知るものにとつて、舞台の姿は信じがたい美しさと覇気に満ちていた。仁左衛門さんはその年代、環境から、歌舞伎役者らしい役者といえる最後の人であつたと思う。

羽田澄子「はねだすみこ」記録映画作家」プロフィール
1926年、旧満州大連生まれ。自由学園を卒業後、岩波映画製作所に入社。岩波写真文庫の編集の後、記録映画の演出に携わり、初演出作品「村の婦人学級」（1957）に始まり、80本を超えるドキュメンタリーを手がけた。一方、「薄墨の桜」（1977）以降、自主製作作品にも取り組み、「早池峰の賦」（1982）では、芸術選奨文部大臣賞、「AKIKO」あるダンサーの肖像」（1985）で、文化庁芸術作品賞を受賞する。代表作に「痴呆性老人の世界」（1986）、「安心して老いるために」（1990）、「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」（1992）、「住民が選択した町の福祉」（1997）、「平塚らいてうの生涯」（2001）、「山中常盤」（2004）、「終りなければすべてよし」（2006）など。最新作は、「嗚呼 満蒙開拓団」（2008）。

平成21年3月27日（金）・28日（土）・29日（日）
開場12時30分 開演13時
京都芸術劇場 春秋座 「京都造形芸術大学内」

- 3月27日（金）
13:00～ 講演「羽田澄子氏 十三代目仁左衛門を語る」30分
13:45～ 「若鮎の巻」102分
15:45～ 「人と芸の巻（上）」94分
- 3月28日（土）
13:00～ 「人と芸の巻（中）」101分
15:00～ 「人と芸の巻（下）」105分
- 3月29日（日）
13:00～ 「孫右衛門の巻」86分
14:45～ 「登仙の巻」158分



十三代目片岡仁左衛門 略歴

十三代目片岡仁左衛門。本名・片岡千代之助。屋号は松嶋屋。十一代目片岡仁左衛門の三男。山田小卒。上方歌舞伎の継承者として名高い。当たり役に『菅原伝授手習鑑』の菅丞相、『廓文章』の伊左衛門、『恋飛脚大和往来（新口村）』の孫右衛門、『伊勢音頭』の福岡貢、『忠臣蔵』の大星由良之助、『鰻谷』の八郎兵衛などがある。

作品紹介

「若鮎の巻」（102分）

昭和六十二年の夏、上方の若手役者グループ「若鮎の会」が自主公演を行うにあたり、監修と演技指導をした時の記録。日頃は脇役しかつとめる機会のない若手役者たちに請われて、仁左衛門は実に丁寧な指導をする。

「人と芸の巻（上）」（94分）

八十四歳から八十八歳までの折々の舞台、芸談、生活を記録したもの。昭和六十二年六月、大阪・中座での『伊賀越道中双六』の「沼津の場」で平作を、十月、東京・国立劇場で『紙子仕立両面鑑』『大文字屋』を演出し、助右衛門を演じた。毎朝、神仏に祈る姿、不自由になつてきた目のことを語る。

「人と芸の巻（中）」（101分）

昭和六十二年一月、東京・歌舞伎座の楽屋にて、二月に演じる『菅原伝授手習鑑』での台詞を稽古している。舞台での動きを、目立たず体で覚えようとする仁左衛門が印象的。

「人と芸の巻（下）」（105分）

長男・片岡我當、次男・片岡秀太郎、三男・片岡孝夫、五女・片岡静香、夫人・片岡喜代子が仁左衛門を語る。昭和六十三年仁左衛門は脳梗塞で倒れた。しかし四十日ほどで回復、十二月二十三日から京都・南座の顔見世に出演する。

「孫右衛門の巻」（86分）

平成元年十月、歌舞伎座で『恋飛脚大和往来』の稽古を見る姿と、孫右衛門を演じる姿の記録。脳梗塞で倒れた翌年の記録。八十六歳になった仁左衛門は視力障害も進み、ほとんど視力を失っていた。

「登仙の巻」（158分）

八十八歳から九十歳で亡くなるまでの舞台、生活の記録。平成五年十二月十六日、南座での『八陣守護城』『湖水御座船の場』に佐藤肥多守正清として出演。仁左衛門はこの舞台を十二月二十一日までつとめあげた。

京都芸術劇場 春秋座

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

劇場アクセス

- JR「京都」駅・京阪「三条」駅・阪急「河原町」駅から
→京都市バス5系統「岩倉」行きに乗り、
「上終町・京都造形芸大前」下車（京都駅から約50分）
- 京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」・「北大路」駅から
→京都市バス204系統（循環）に乗り、
「上終町・京都造形芸大前」下車（約15分）
- 京阪「出町柳」駅から
→阪山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分
→タクシーで約10分
- 駐車場はございません。お車でのご来場はご遠慮ください。

